

令和 4 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

都市型の生活支援ネットワークの構築に関する 調査研究事業のご報告

2023年5月30日

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

はじめに

本調査研究事業の報告書一式については、弊社webサイトに掲載しております。

令和4年度当初公募 74 都市型の生活支援ネットワークの構築に関する調査研究事業

https://www.nttdata-strategy.com/roken/report/index.html#r04_74

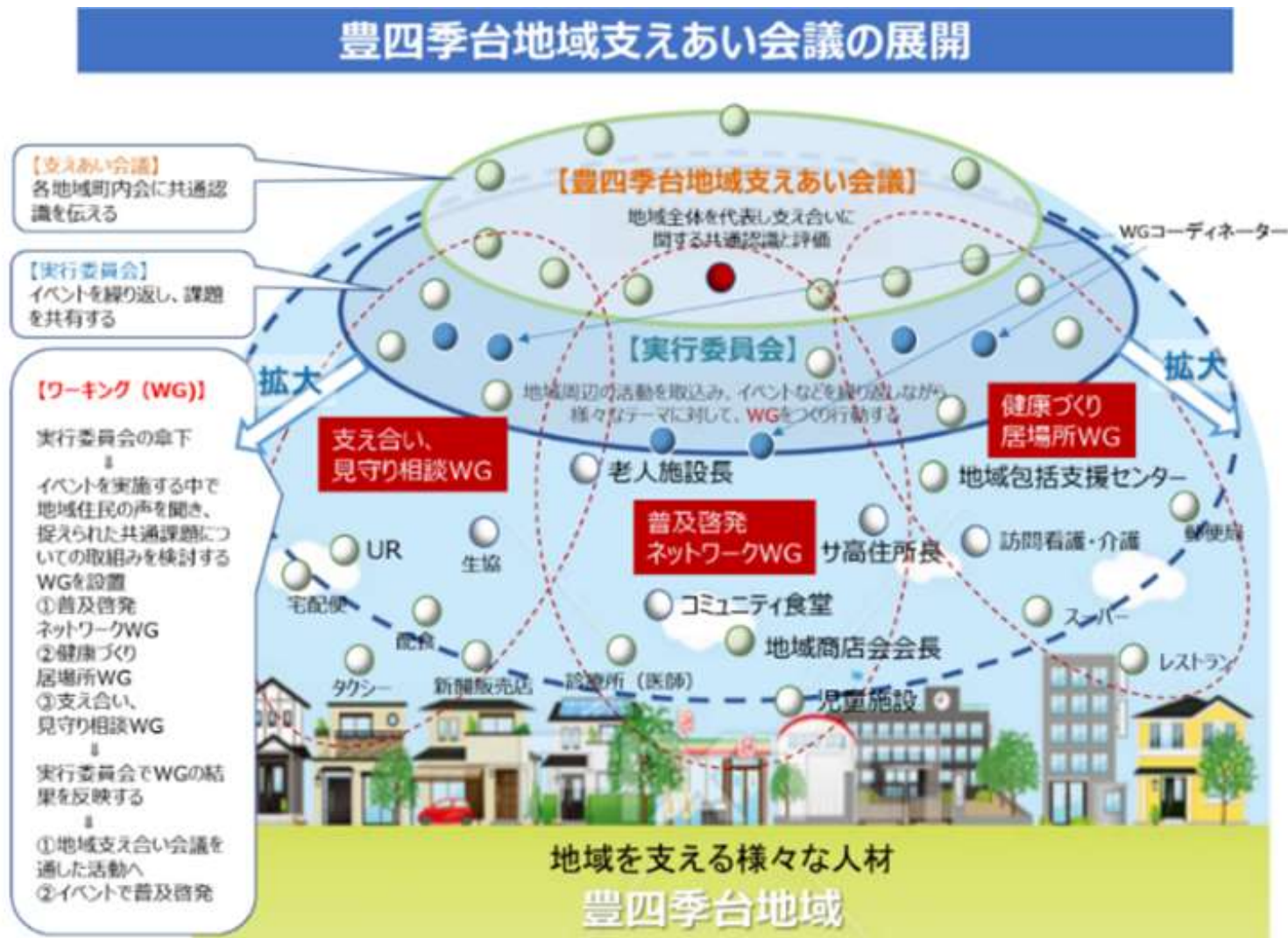
【概要】

高度経済成長期に開発された郊外住宅地の多くでは、今後後期高齢者人口の急増に伴い生活支援ニーズや社会参加ニーズが急増するため、地縁等のコミュニティ機能が希薄化した都市部における生活支援体制整備のあり方が求められている。

本事業では、コミュニティの課題解決力を向上させるためのプロセスを整理するとともに、そのプロセスに沿って地域の実情に応じた働きかけをすること、そのために、行政が様々な資源のマネジメントや制度・仕組みの整備を行うことが望ましいと整理した。

また、都市部の生活支援体制整備事業におけるコミュニティ機能の土台として、地域の中に生活支援ニーズ（社会参加ニーズを含む）をキャッチするアンテナ役となる主体（住民や団体、企業等）を位置付けること、フレイル予防に関する学びを自治会・町会等ごとに行い高齢期における社会性維持の重要性への気付きを地域に広げること、生活支援ニーズ（社会参加ニーズを含む）のある人を居場所や各種イベントへつなぐこと、日常生活圏単位のネットワークを前提としてICTシステムも活用することなどを、生活支援ネットワークに必要な要素として整理した。

【参考】今回の調査研究事業のフィールド：千葉県柏市豊四季台地区



出所：東京大学高齢社会総合研究機構による資料より引用

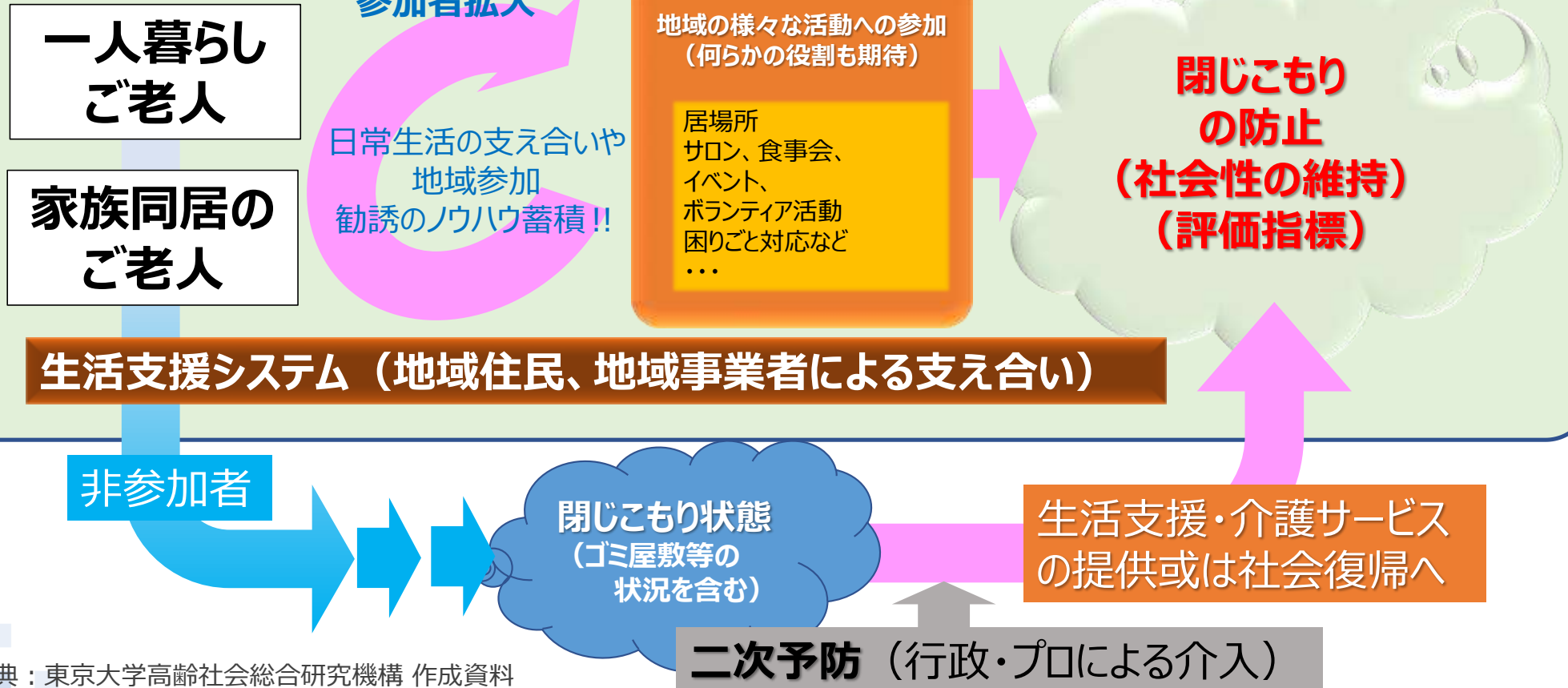
目次 : 都市型の生活支援ネットワークの普及展開モデル案

1. 課題認識と普及展開モデルの基本構図
2. モデル展開可能な地域のイメージ
3. モデルに必要な機能とフロー
4. 機能を実現する多様な主体によるネットワーク
5. ネットワークの核となる世話役
6. ICTによる世話役の情報共有の考え方
7. 想定される支援の形
8. 地域の課題解決力を向上させるプロセスとその支援
9. 地域のつながりづくりとそれを推進する地域のコーディネーターの役割
10. 第2層協議体を活かした横展開の考え方

1. 課題認識と普及展開モデルの基本構図

- フレイルが生じる大きな要因として、社会性の低下があるため、居場所等社会参加の場への誘導によるフレイル予防が、生活支援ニーズへの対応の際に一体的に行われることが重要である。

フレイル予防システム（地域の高齢者の社会参加等の促進）



出典：東京大学高齢社会総合研究機構 作成資料

2. モデル展開可能な地域のイメージ

- 本調査で構築したモデルの展開を進めるにあたっては、下記のような課題を持つ、高度経済成長期に開発され、住宅購入によって一斉に居住開始した住宅地を含むような都市近郊地域との相性が良いのではないかと考えられる。

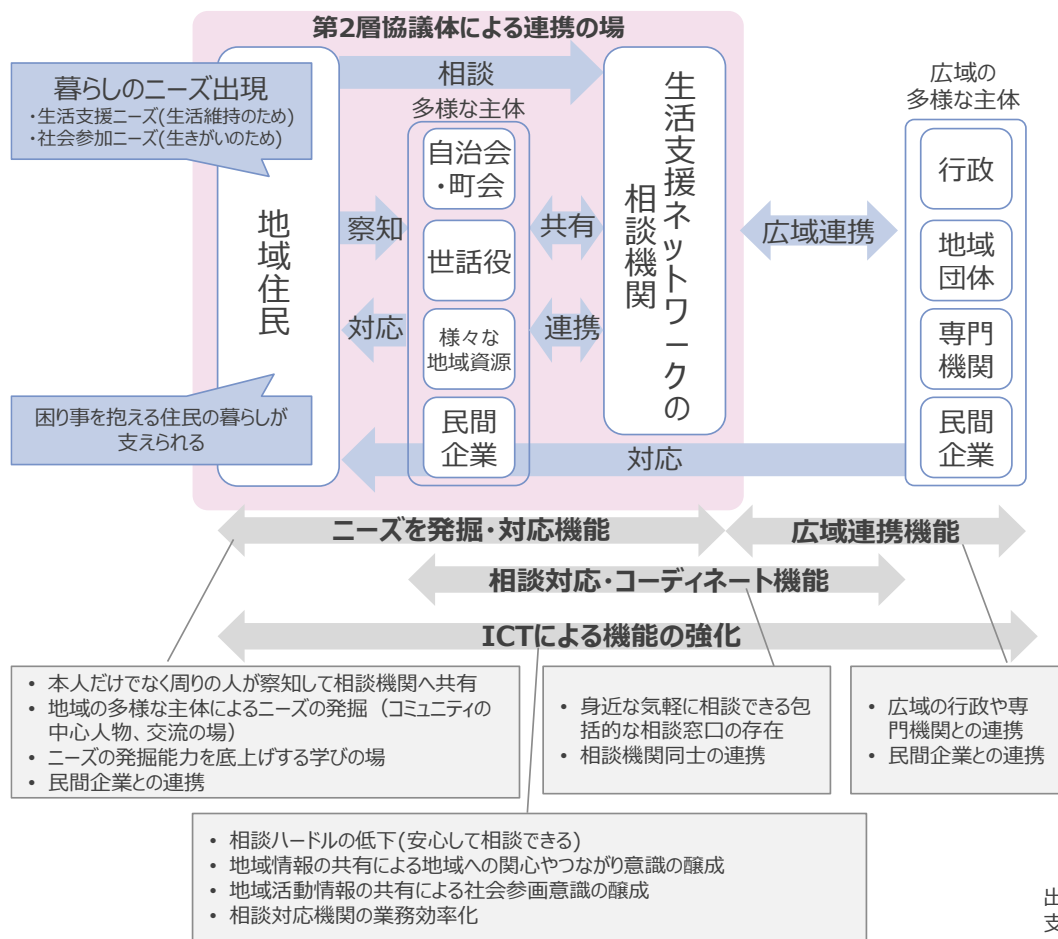
本モデルの適用にあたっての地域の要件

- 今後フレイルが進行する団塊の世代を中心に急速に高齢化が進むなど、介護予防・生活支援に強い課題認識が芽生えやすい地域
- 協議体や生活支援コーディネーターの活動が行き詰っている地域
- 住民主体の地域づくりや互助を進めたいが、なかなか進まない高齢福祉にとどまらない、多世代の地域づくりをすすめたい地域
- 自治会・町会等地縁組織や住民主体の活動（サークル等）が多少ある地域（一方いづれもないような地域でのゼロからの立ち上げや再構築には不向きと考えられる）
- 住民の一定の情報リテラシーがある地域（地域データを使った勉強会やスマホ活用が行われている等）

3. モデルに必要な機能とフロー

- 都市部における支え合いのシステムは、日常生活圏域において、地域住民や生活支援組織ネットワークの相談機関、およびその他多様な主体が連携しながら、下図に示す機能を持つことが必要である。

都市型生活支援システムに求められる機能とフロー

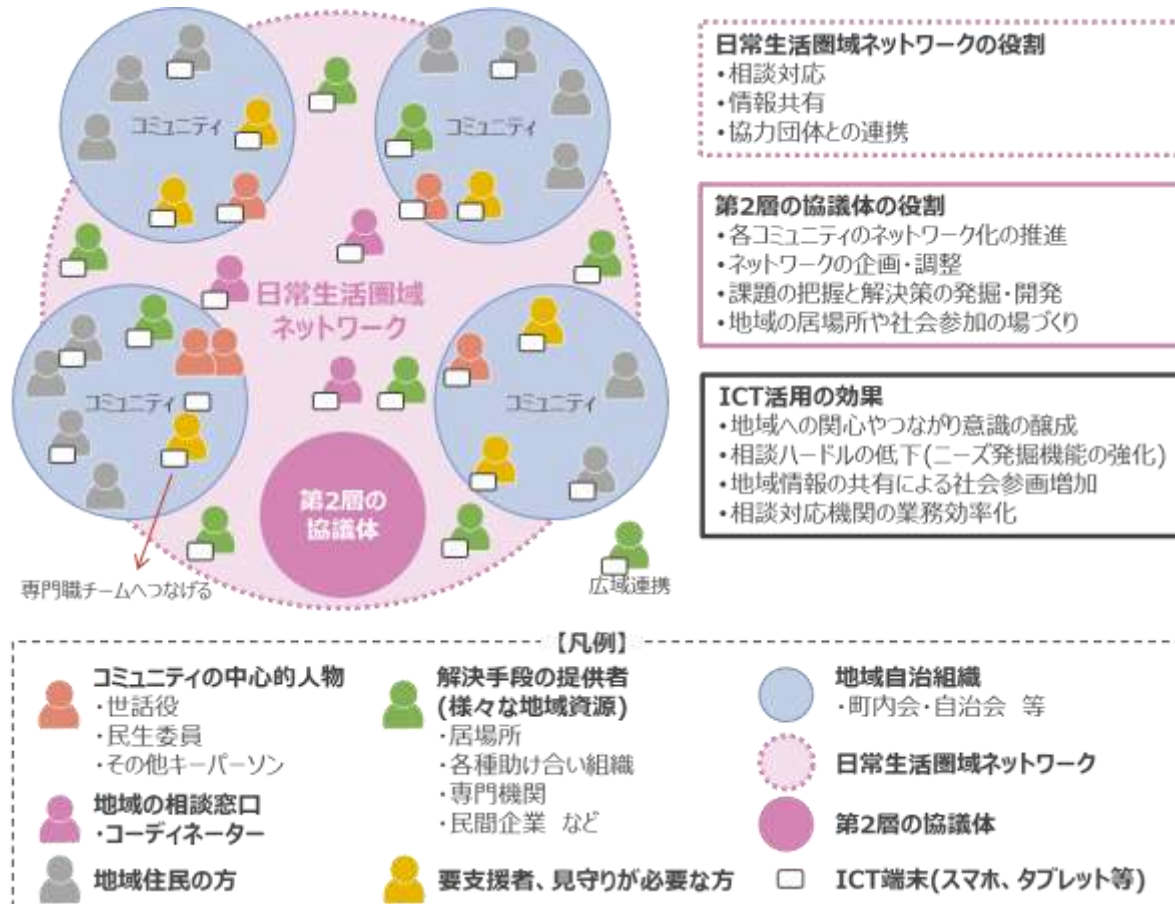


出典：NTTデータ経営研究所,ICTを活用した都市型生活支援ネットワークに関する調査研究事業（令和3年度）

4. 機能を実現する多様な主体によるネットワーク

- 日常生活圏域のネットワークは、地域の自治会や趣味の集まりなどのコミュニティを、地域の相談窓口やコーディネーターが第2層の協議体を活かしつつ構築する。
- コミュニティの中心的人物（世話役等）が、ネットワーク構築においても重要な役割を果たす。

都市型生活支援ネットワークの関係図



出典：NTTデータ経営研究所,ICTを活用した都市型的生活支援ネットワークに関する調査研究事業（令和3年度）

5. ネットワークの核となる世話役

- 世話役には、地域づくりを担う組織と住民とのつながりを促進することが求められる。

地域の様々な関係者が世話役となり、世話役同士がつながれる体制づくり

- ・ 町会ごとの状況やニーズに応じた体制づくり
- ・ 民生委員（OBOG含む）や商店会・民間企業との連携
- ・ サロン等の小さなコミュニティとの連携

世話役の役割

地域の困りごとや
ニーズを見つけた時

地域の関係者から
相談があった時

交流や活動につながる
お知らせがある時

地域の窓口や民生委員、
地域の世話役に
気軽に相談する
(個人情報には留意)

手助けや情報提供
できそうなこと
があれば、伝える

活動内容や状況を
具体的に知らせる
世話役は身近な人に
伝える・誘い合う

困りごとの早めのキャッチと対応、様々な活動への参加が促進され、
地域全体のフレイル予防・事態の悪化の防止につなげる

6. ICTによる世話役の情報共有の考え方

- 例えばアプリを活用することで、簡単に世話役同士の情報共有ができるようになる。

世話役同士がつながれるアプリ



地域の困りごとや
ニーズを見つけた時

世話役から
相談があった時

交流や活動につながる
お知らせがある時

窓口や世話役への個別連絡、
グループ内での情報交換ができる

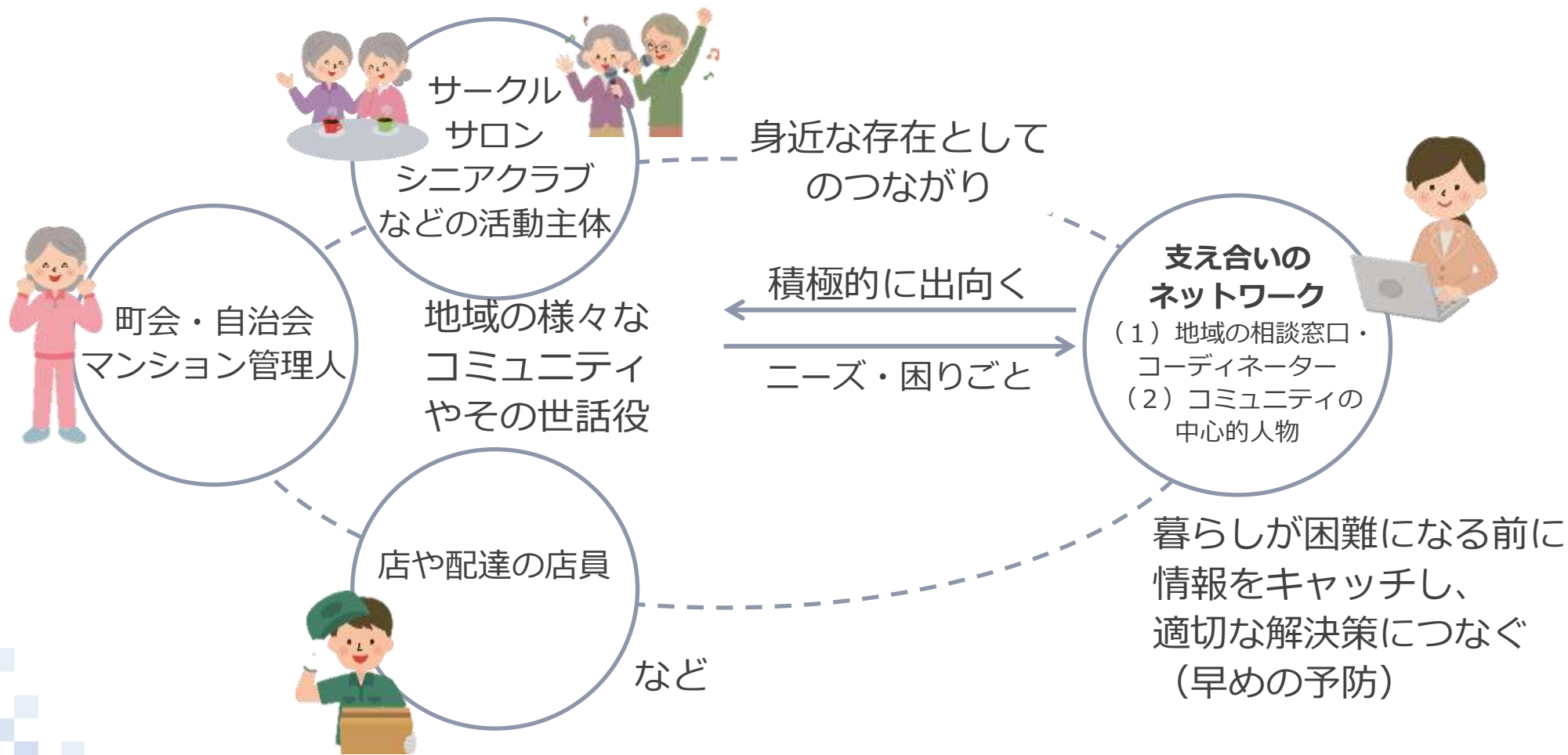


掲示板でお知らせできる
様々な地域の活動を
知れる



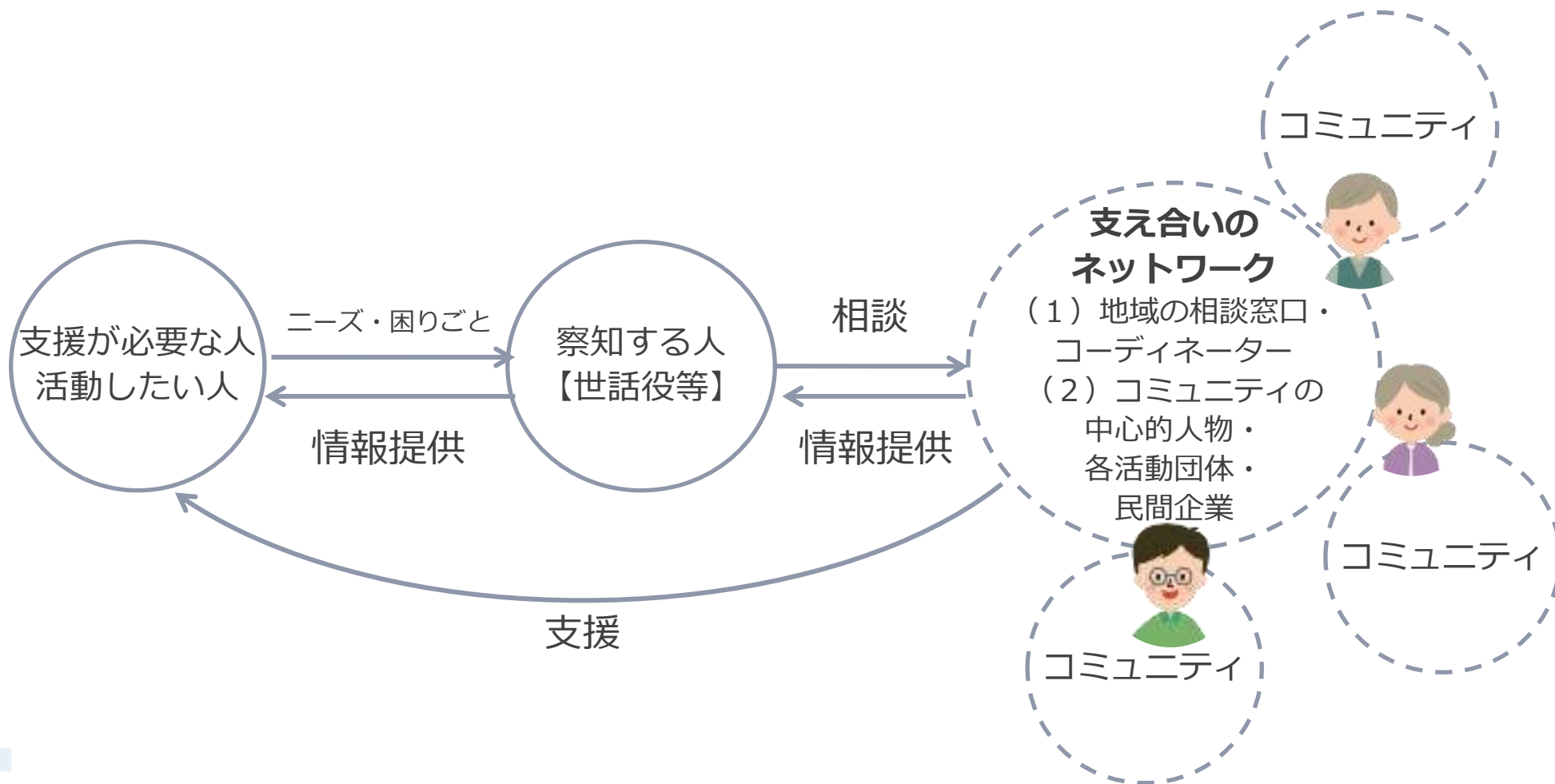
7. 想定される支援の形 ① 困りごとの早めのキャッチ

- 地域の様々なコミュニティと相談窓口が身近につながることで、困りごとを早めにキャッチできる。



7. 想定される支援の形 ② 支援や情報の提供

- 地域のネットワークの人脈・情報を活かすことで、役立つ支援や情報の提供が可能となる。



7. 想定される支援の形 ③オンラインを活用した交流の維持

- 外出しづらい人も時々オンラインで会えれば、相談したり、異変に気づいたりしやすくなる。
- 出かけにくい高齢者には、サロン等にオンラインで参加してもらうのも一案。



8. 地域の課題解決力を向上させるプロセスとその支援

昔ながらの地域は…

- ・住民同士の顔が見える関係
- ・暮らしのニーズや困りごとに自然に気づける
- ・助け合いが当たり前（自分達でできることは解決）

都市部の特徴

- ・住民同士の顔が見えづらい、名前も知らない
- ・暮らしのニーズや困りごとに気づきづらい
- ・自然な助け合いが生まれにくい
(地域の課題解決力が相対的に低い)

都市部では、**地域の課題解決力を上げるための“仕掛け”**がより重要
(行政の役割・責任)

地域の課題解決力を向上させるプロセス

住民が、社会参加の必要性に**気づく**

社会参加の機会や方法を知る

参加してみる/やってみる

地域住民と**顔見知り**になる

人間関係が構築される

住民同士でニーズ/困りごとに**気づく**

コミュニティ内で解決する

コミュニティ外で解決する

AARサイクル*によるアジャイル的な発展

住民・コミュニティへの働きかけ

※都市部では場面に応じたICTの活用が有効

動機付け (フレイルの学び等)

情報提供 (地域での活動機会等)

誘い合い促進/立上げ支援
(コーディネート)

場づくり支援

啓発
事例や資源の共有
場づくり支援

相談される関係構築,
課題解決支援・コーディネート

地域の实情に
応じて、
コーディネーター等
を配置し
取り組み

行政の役割

資源のマネジメント

ヒト

SC・世話役等の配置, 育成

カネ

人件費, 活動費確保
(情報共有ICTインフラ費用含む)

情報

地域課題・資源, 事例・
ノウハウの共有, 啓発

サービス

公的サービス整備

制度・仕組みの整備

制度

生活支援体制整備
重層的支援体制整備
総合事業 等の活用

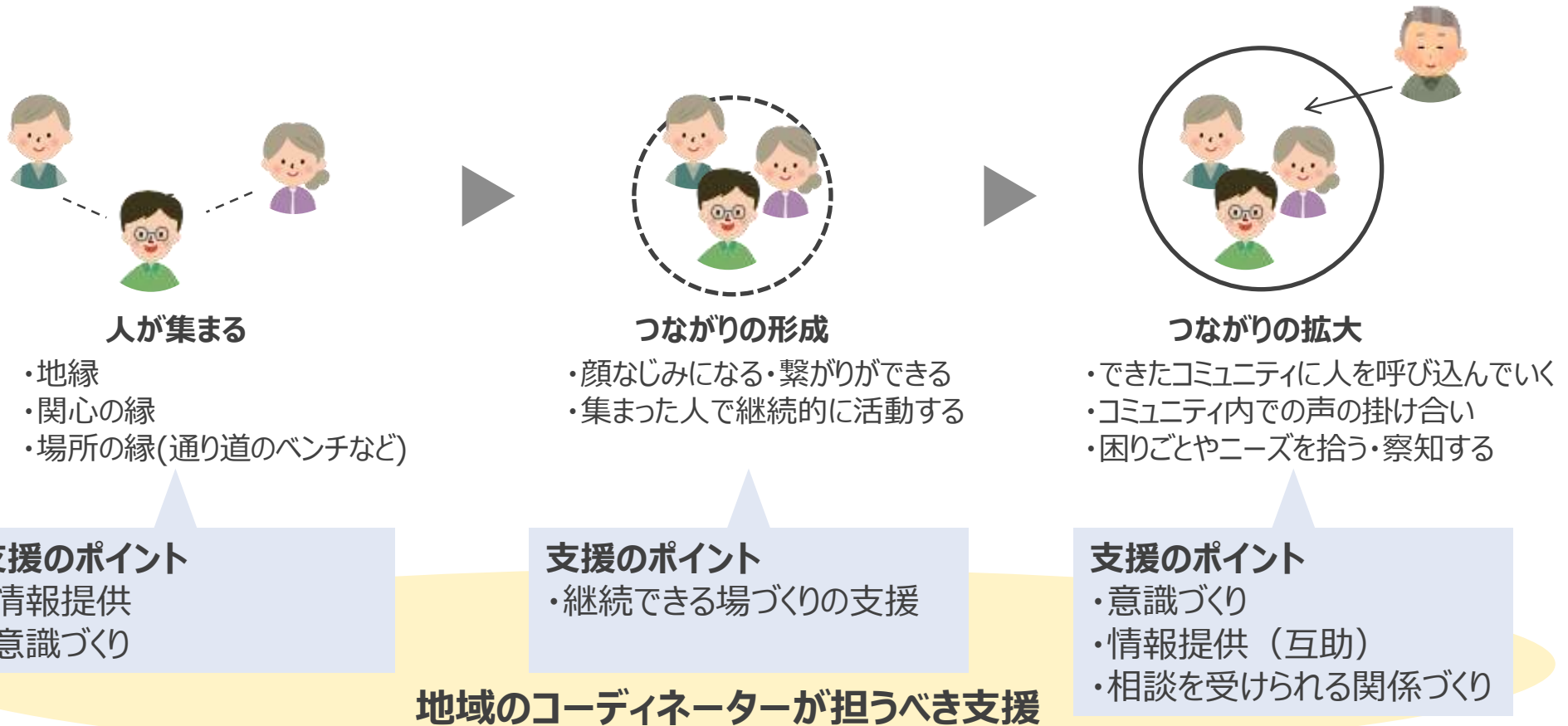
仕組み

地域課題・資源の把握
住民・関係者との対話
PDCA (継続的改善)

*AARサイクル：見直し (Anticipation)、行動 (Action)、振り返り (Reflection) を繰り返すことで、地域づくりを進めるという考え方

9. 地域のつながりづくりとそれを推進する地域のコーディネーターの役割

- 困りごとやニーズをキャッチするためには、「いつもとは違う」という違和感に気づくことが重要であり、普段から顔なじみのつながりやコミュニティをつくっておくことがポイント。
- つながりが希薄な都市部においては、地域のコーディネーターの支援が重要となる。



10. 第2層協議体を活かした横展開の考え方

- 取組みの横展開を図るためには、第2層の協議体が核となり、小地域・コミュニティへの支援を実施すると共に、その取組みを第2層の協議体で他コミュニティに共有することが重要となる。



小地域・コミュニティ

- ③活動の活性化
 - ・フレイルについての学び
 - ・地域データの共有
 - ・つながりづくり
 - ・学び・気づきからの行動

第2層協議体

- ①広域的な検討
 - ・日常生活圏域の課題の抽出・共有
 - ・対策の検討・実行支援

地域の他のコミュニティ

- ⑥実情を踏まえた取組み



NTT DATA

Trusted Global Innovator